

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
	17	入居者に対する支援の内容がバラバラであり、支援をする側の都合で入居者の気持ちや希望をくみ取っていない時がある。	入居者ひとり一人の気持ちに向き合い、本当の気持ちや望んでいる生活ができるように支援を行う。	申し送り時や会議で職員間でもよく話し合う。	12ヶ月
	27	現状受け身の生活になっている。「ここに居れば何でもやってもらえる。何もなくてもいい。」という声をよく聞く。	やりたいことが発言できる環境を作る。	「喉が渴いたら自分で選んで飲んでもらう。」 「料理は作ってもらうのではなく一緒に作る。」 「献立は一緒に考えて買いに行く。」等さりげない促しや提案を重ねることで自ら「〇〇したい」と発言できる環境を作っていく。	12ヶ月
	35	役割や楽しみごとの支援が受け身であり「やらされている。」になっている。	楽しみごとの支援を見つけられる 自然と自らやっている姿が見られる	入居者のひとり一人をきちんと知る。 職員同士が色々な案を出しながら実際にやってみる。 職員の発案や取り組みが言いやすい環境、取り組みやすい環境をつくる。	12ヶ月
	1	日々変わる認知症ケアや病気の本質に対しての理解不足により入居者主体の暮らしとは言えない状況にある。また、ユニット間での信頼関係構築ができておらず管理者と職員は理念を共有して実践につなぎきれていない。	理念に基づいた支援を行う。	認知症のケアについて日々学ぶ。 病気の本質を理解する。 理念を理解する。 まずは入居者の意向を聞く。 入居者ができることはしてもらう。 管理者、職員は互いに信頼し、協力し合う。	12ヶ月
	27	日常の中で皆ができる事、皆で出来る事は充実しているが「その人らしさ」に着目したその人ならではの、その人しかできない事への支援が不足している。	充実した生活 その人が出来ることの維持	その人の今の思いを再確認する。 チームでアイデアを出し、取り組みをする。	12ヶ月
	27	入居者ひとりひとりに対して何がその人らしい事なのかをよくわかっていない。	その人らしさを理解して、日々その人らしい生活を送っていただけるように努める。	本人や家族等から情報収集し、生活歴や趣味嗜好、その人が歩んできた人生を理解するように努め、その人らしさとは何かを考える。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。